



十字に配置された4つのユニットと、硬い素材と柔らかい素材が組合わさった内部構造が、余計な振動を抑制し、クリアな中高音を実現する。

Sony XBA-4SL

ステレオイヤークリーパー「XBA-4SL」

撮影／内藤サトル 取材・文／JQR編集部

イヤホンの中に 4つのスピーカーを埋め込んだ 高品質ヘッドホン

場所を選ばず自由に音楽を聴けるというスタイルを作り出したウォークマンが誕生して今年で33年。音楽のあるライフスタイルを生み出し、今では一日中音楽漬けという人も多にない。

そのウォークマンの誕生とともに進化してきたのがヘッドホンだ。理想は、生の音を直接聞くような音質であり、装着時にストレスがないことである。

その実現に向かって、ソニーは長年にわたりヘッドホンの改良に取り組んできた。そのひとつの金字塔が、昨年末に発売されたヘッドホン「XBA-4SL」である。

単純に言うと、そのヘッドホンのイメージは、小さなイヤホ

ンに領域の違う4つのスピーカーを埋め込んだ、というものだ。本当にそんな芸当が可能なのだろうか？と誰もが思うに違いない。

そこで詳しく述べて、まず、これまで補聴器に使用されていたバランスド・アーマチュア（以下BA）型を採用した小型ドライバーユニットを開発。BA型は小型でも人の声などの中高音の音質が良いという利点があるが、それをよりブラッシュアップして、非常に伸びのある中音域の再現を実現した。これを足がかりに、低音域、高音域のBA型ドライバーユニットも開発。「XBA-4SL」では、それらを計4基搭載することに成功した結果、それぞれが独立して得意とする音域をカバーし、低音から高音まで滑らかで迫力のある音を再生することが可能になったという訳だ。

ボーカルなどはフルレンジと呼ばれるメインのユニット。そ

こへ高音に特化したトゥイーターが繊細な音を送り込む。すると、まるで生の音を聞いているかのような臨場感に包まれる。要となる低音は、ウーファー、スーパーウーファーという2つのユニットが担当。これまでのインナーイヤークリーパーのヘッドホンでは実現できなかった超低音まで再生できるため、音楽はもちろん映画の効果音や男性の低音域の声まで、リアルな音が楽しめる。このヘッドホンの登場で音楽の味わいが、またひとつ深くなるに違いない。



革製の専用ケース、コードのアジャスター。通常のハイブリッドイヤークリーパー（SS,S,M,L）に加え、遮音性の高いイヤークリーパー（S、M、L）が付属。

●お問い合わせ先／ソニー買い物相談窓口 ☎0120-777-886

Sony XBA-4SL

XBA-4SL 希望小売価格 30975円